

## 主の昇天の説教

金 大烈 神父 2009年5月24日(日)

### 《"別れ"を前提とした"出会い"》

お早うございます、お元気ですか？

今日はイエス様が天にあげられた事を記念する、『主の昇天』を祝うミサに与っています。

さあ、私達がよく使う言葉の中に"出会い"という言葉があります。人と、何かと、色々なものと出会い、私達は死ぬ時まで"出会い"を繰り返しながら生きています。

"出会い"は"ある事"を前提としています。それは何でしょうか。"別れ"でしょう。"別れ"を前提としない"出会い"はこの世の中には絶対にありません。例外もありません。どんな出会いでも、どんな形式の出会いであっても必ず別れを前提としています。しかし、その"別れ"を考えながら"出会おう"とする人はいません。

例えば、犬を飼おうとしても、その犬が死ぬ事を考えながら飼う人はこの世の中にはいないと思います。福音の事を少し思い出してみましょ。イエス様は色々な生き方を見せながら弟子達を育てました。その弟子達は、十字架の道をイエス様が歩む時まで、その弱さによってイエス様を裏切る事ばかりでした。そしてイエス様が復活された時にも信じる事が出来ませんでした。そして、どうにか理解をして"主の昇天"を迎えます。その時、弟子達は自分たちが歩んで来た思い出が、イエス様と共に歩んで来た全ての事柄が思い出されたと思います。その弟子達を集め、イエス様は遺言を残されました。『私は天に昇る。あなた方はこの様な生き方をして欲しい』とおっしゃりながら"別れ"を見せて下さいました。その様な、自分の命をかけて従おうとしたイエスという"主"と別れる弟子達の心はどの様であったのでしょうか。現実的な感覚で想像してみましょ。悲しかったでしょう、怖かったでしょう。「これでイエス様と、先生と最後の別れになるのか」。色々な思いがあったと思います。実際にこの福音の説教を準備する前に、私に個人的な出来事がありました。2日前、私と13年間、一緒に良いことも悪いことも共にした"わんちゃん"が急死しました。

私は叙階されてから4,5年経った後、13年前、韓国のある島の小教区を初めて主任司祭として務めることになりました。私はようやく自分の"住まい"を持つことになり、ゆっくり枕する所が出来たのだから、子供の時から「犬を育てたい」という夢を実現しても良いのではないかと思いました。そしてドイツから貰った犬が、2日前に死んだ"リオ"という犬でした。名前も私の"ザベリオ"の最後の2文字をとり"リオ"と名付けました。その時から私はリオと生活を共にし、あの子と一緒にいた時間を考えても、ひとりぼっちだという思いは一度もありませんでした。司祭は日曜日のミサを沢山の信者の方々と共に祝い、楽しい雰囲気の中でその方々が帰られた後は、寂しさを感じるものです。「あー、皆、帰られたのだなー」という思いにあった時でも、リオはそれを慰めてくれる存在でした。私を励ましてくれる役割を担ってくれました。そして、遠路日本まで連れて来ました。実際に日本に私が来る事が決まった時、私は迷いました。「司牧の邪魔になるのではないか」、「自分固有のものを持って行くのもふさわしくないのではないか」と色々な迷いがありました。皆様もご存じの様に大型犬で50キロ位の大きさです。それを預け、世話をお願いする方を捜すのも大変でした。結局、私は私の3倍もする飛行機代を支払い、その犬を日本に連れて来ました。

その犬が育った韓国は寒い所でした。その寒さの中で育ったリオは、寒い時ほど元気になり、雪の上で寝る程の体質を持った犬でした。しかし私と一緒に、日本で一番暑い太田まで来ました。昨年から少しづつ体が弱くなっていました。きっとその暑さにやられたのでしょう。原因ははっきり分からないのですが、2日前、急死しました。最も残念だと思うのは、その死の瞬間を私が共にする事が出

来なかった事です。私は私の父親が亡くなって以来、初めて大声で泣きました。

そして色々な思いの中、今日の福音を準備したのです。"出会い"というもの、色々な形で出会う人々、記憶にも残らない出会い、いつも自分が動かされる位影響を及ぶ出会い、この出会いなしでは、今の自分が考えられないと思える出会い、沢山の出会いがありますが、今日、イエス様が天に昇られる前に、自分の子供の様な弟子達におっしゃったその言葉と、それを見送る弟子達の心、それは私達の心ではないかと思いました。結局、愛するものも、憎むものも私達は"別れ"ます。"出会い"というものは、綺麗な"別れ"を目指して、私達が意識していかなければ、その出会いは後悔するだけの結果に終わってしまうと思います。皆様、イエス様は昇天されました。イエス様は、『皆、この様に生きて欲しい』『私が見せるべきものは全てあなたがたに見せた。だからこれからは、難しさがあっても、辛くても、あなた方に与えられている使命を果たして欲しい』その様な遺言を残されて昇られたと思います。多分、弟子達も辛かったのでしょう。別れるのがものすごく辛かったと思います。「頼りにしていたこの方がいなくなったら、私達はどうなるのか」。ものすごく困ったと思います。しかし彼等は殉教までも含め、自分の使命を余すところなく果たしました。

今、"出会い"と問いかければ、様々な"出会い"が皆様の頭に浮かぶと思います。何よりも、夫婦関係でしょう。子供との関係でしょう。友達も結構いるでしょう。この様に、信仰をとおした兄弟姉妹と言われる関係もあるでしょう。その関係の為に頑張りましょう。いつか、私と皆様との"別れ"も訪れます。それは避ける事の出来ない真実です。ですから、私も私としての最善を尽くして、皆様と愛を交わしたいという希望もあります。多分、皆様もその様な気持ちで、その様な心で私と交わっていると思います。

時には、憎しみが生じる様な間違っただけの事もあるかも知れませんが、しかし、意識しましょう。いつか私達は別れます。その別れの為に、出来るだけ心を込めて、弱さを持っていても、最善を尽くそうという気持ちで、お互いに尊重し合い、お互いの為に祈る事の出来る心を持つ事が出来れば、昇天されるイエス様の真の意味を、私達が納得し、理解している証拠になるのではないかと思います。

皆様、悲しい事かも知れませんが、私達は別れます。しかし、それが終わりでは無く、いつか、イエス様が約束された、その永遠の命を楽しめる御国に入れる事も意識しなくてはならない事です。ただ別れる事だけを考えれば、この世の中は空しすぎて、あまり生きる意味がありません。しかし、信仰を持っている私達には、それが終わりではなく、本当に完璧な扉を開く始めである事を私達は理解しています。いつかイエス様と顔を合わせて逢う時まで、出来るだけ頑張りながら、イエス様がおっしゃった様に、『互いに愛し合いなさい』という言葉に心を刻み、そしてそれを具体的に実践しようと頑張ってください。

ありがとうございました。